

うさぎのみみはなぜながい

北川民次 文・絵



福音館書店 1962年 1100円

むかし、うさぎが神さまに大きい体にしてほしいと願いました。すると神さまは、とら・わに・さるを殺して皮を持ってきたら、願いをかなえてやるというまじないをしました。そこで、うさぎは知恵を絞って、とら・わに・さるの皮を持って行きました。神さまは、利口なうさぎがこれ以上力を持つのを恐れて、耳だけを長くしてくれたというお話。素朴で力強い、味わいのある絵で描かれたメキシコの昔話です。

王さまと九人のきょうだい—中国の民話—

赤羽末吉 絵

君島久子 訳



岩波書店 1969年 1200円

子どものない老夫婦が、白い髪の老人からもらった丸薬を飲むと、9人の子どもができました。顔も体もそっくりな兄弟たちは「ちからもち」「くいしんぼう」「はらいっぱい」など、それぞれの名前のとおりの能力を持っています。兄弟は王さまの計略をその能力と知恵でかわしてやっつけてしまいます。中国の風景や人物の姿などがのびのびと描かれています。中国民族に伝わる話です。

おさらをあらわなかったおじさん

フィリス・クラジラフスキー 文

バーバラ・クーニー 絵

光吉夏弥 訳

岩波書店 1978年 780円



ある晩、ひとりで住んでいるおじさんは、疲れてお皿を洗いたくなかったので、明日洗おうと思ってながしにほうっておきました。何日も同じようにしていくうちに、家の中は汚れたお皿でいっぱいになりました。お皿もなくなり、花瓶や植木鉢で食べますが、それもとうとうなくなって…。最後は、素晴らしいアイデアで片付けます。モダンでしゃれた味わいの、赤と緑と黒のみで描かれた絵本です。